

単元名

切串さとうみ学習～海辺の生き物とふれ合おう～



海辺の生き物 # 川の下流の生き物 # 体験 # 季節 # 水質 (環境)

単元の概要

長年、一年に一度、全校で、学校の横に流れる長谷川の生き物調査を行っています。縦割り班ごとに生き物調査をし、見付けた生き物を交流したり、見付けた生き物から、年ごとに環境がどのように変化しているかをまとめています。低学年は、生き物をどのように見付けるかを、縦割り班の上級生に教えてもらい、真似をしながら見付けていきます。そして、見付けた生き物を自分で捕まえることも頑張ります。中・高学年は、体験を通して、生き物の種類とすみかの関係や季節との関係を整理していきます。また、見付けた生き物から、環境がどのように変化しているかを考えます。この体験を通して、生き物を大切にする心情、生き物や環境への興味・関心、異学年で協力し合おうとする態度等を育てています。

【本質的な問い】(何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」)

○切串の海は、自然豊かな海なのだろうか。

【単元を貫く問い】(単元を通して考え深めていく「問い」)

○どこに、どんな生き物がいるのだろうか。

【単元の目標】

- (低) 切串の海辺に生息する生き物とふれ合うことができる。
- (中・高) 海辺の生き物の種類やすみか等、生態への興味・関心を高めることができる。
- (全校) 縦割り集団活動によって、互いに協力し合おうとする態度を育てる。

活動の様子 (全 2 時間)

【課題設定・情報の収集 (1・5時間)】

- 始めの会で、講師の先生(さとうみ科学館 西原館長)とあいさつをしたり、活動中の約束・注意事項を確認したりする。
- 生き物調査を行い、海辺の生き物とふれ合う。



生き物を探す児童の様子



生き物を探す児童の様子



生き物を探す児童の様子

【情報の整理・分析、まとめ、振り返り(0・5時間)】

- 縦割り班ごとに、見つけた生き物の中から、紹介したい生き物の一つを選び、名前と見つけた場所を紹介し合う。
- 見つけた生き物を交流し、生き物の特徴、種類とすみかの関係、季節との関係などを比べて整理する。また、これまでの調査と比較して、増えた生き物から環境の変化による違いを考える。



見つけた生き物を交流する児童の様子

児童生徒の変容

- 低学年の児童は、海辺の生き物に触れる経験が少なく、自ら触ることに抵抗を感じる児童もいたが、生き物を見付ける活動を通して、繰り返し、石をめくってみたり、砂を掘ってみたり、網ですくってみたりしながら、生き物を見付けては歓声を上げ、捕まえようとする姿が多く見られた。逃げるカニを素早く捕まえることができるようになっていた。
- 中・高学年の児童は、毎年活動を行っているため、生き物調査の活動中にもこれまでの活動を想起して、生き物の種類やすみかななどを経年比較し、共通点や違いを交流していた。また、同じ班の低学年児童にも自分たちの気付きを教えたり、低学年児童の思いを実現させてあげようとサポートしたり、常に居場所を確認するように声を掛けたりする姿も見られた。

連携機関・団体・人物

【体験活動】さとうみ科学館 西原館長



成果○と課題●

- 毎年活動を行っているため、海辺の生き物を経年比較することができ、環境の変化に気づきやすい。また、活動が繰り返されるため、海辺の生き物に対して苦手意識が減り、興味・関心が高い。
- 潮の関係だけでなく、気温と熱中症予防対策を考慮すると、活動しやすい時期が限定される。今後は、活動時間や交流する場所などの工夫が必要となる。

単元名

どうぶつ園のじゅうい



国語科 # 職業 # 水族館 # 水族館の飼育員

キャリア

単元の概要

「どうぶつ園のじゅうい」の説明文を読み、筆者（動物園の獣医）が、いつ、どんな仕事をしたのか読み取ります。どうしてその仕事をするのかわけや工夫したことも読み取っていきます。筆者の仕事で、毎日すること、その日だけした仕事を読み取り分類し、表にまとめていきます。そして、筆者の仕事の中で、初めて知って驚いたことや、「もっと知りたい。」と思ったことを考え、まとめていきます。考えたことは、友達と話し、共有していきます。また、発展として水族館の飼育員さんの仕事内容を聞いて、水族館の飼育員がどんな職業なのか知り、初めて知って驚いたことや、「もっと知りたい。」ことを考えていきます。この学習活動を通して、職業について知り、自分の考えを文章化・言語化しようとする態度を育てていきます。

【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

○社会には、どのような職業があるのだろうか。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）

○動物園の獣医は、どんな仕事をしているのだろうか。

【単元の目標】

○水族館の飼育員さんの一日を聞いて、初めて知って驚いたことや「もっと知りたい。」と思ったことを、自分の身の回りと比べて、考えを書くことができる。

活動の様子（全1時間）

【情報収集】

- ゲストティーチャー（さとうみ科学館 学芸員 鋤崎先生）とあいさつをしたり、鋤崎先生の自己紹介を聞いたりする。
- 鋤崎先生が「海響館」で働いていたときの仕事内容や経験談を聞く。
- 海獣が水族館で行うトレーニングを体験する。



鋤崎先生のお話を聞く児童の様子



鉦崎先生が行っていたトレーニング
の説明を聞く児童の様子



水族館で海獣が行うトレーニング
を体験する児童の様子

【情報の整理・分析・まとめ、振り返り】

- 水族館の飼育員さんの一日の仕事を聞いて、初めて知って驚いたことや「もっと知りたい。」と思ったことについて考える。
- 鉦崎先生のお話を聞いて感想を伝える。



お話を聞いて感想を伝える児童の様子

児童生徒の変容

- 本学級の児童は、職業について触れたり聞いたりする経験が少なかった。国語科の教材文を読んだり、水族館の飼育員さんのお話を聞いたりして、職業について知ることができた。その後、将来の夢について児童に聞いてみると、「動物園の飼育員になって、動物のお世話をしたい。」や「水族館で働いて生き物に餌をあげたい。」と言うようになっていた。

連携機関・団体・人物

【体験活動】さとうみ科学館 鉦崎賢三さん



さとうみ科学館鉦崎賢三先生

成果○と課題●

- 国語科の学習の発展学習として、実際に水族館の飼育員をされていた方に、お話を聞くことができた。また、職業について興味・関心を持つことができ、将来の夢に繋げることができた。
- 鉦崎先生のお話を聞いた後の学習で、本などでもっと他の職業について調べればよかった。